

移住した皆さんに
インタビュー

ようこそ 小野町

地方から都市部へ移り住んだ方が再び地方の生まれ故郷に戻ること、一度故郷を離れて再び故郷へ戻り定住することを、一般的に「Uターン」と呼んでいます。

町では、人口増加対策のため、Uターンも推進しており、以前ご紹介した町有林おすそわけ事業などの各種支援事業は、Uターン者も対象となっています。

今回は、奥様を伴って約40年ぶりに小野町へUターンした方にお話を伺いました。

◆小野町へ戻るまでは、どちらにお住まいでしたか？

仕事の関係で大阪などで暮らした後、滋賀に家建てて暮らしていました。海外勤務もあったため、海外で暮らした時期もありました。

◆なぜ故郷へ戻ることになったのですか？

滋賀で暮らしていた時も、毎年のように小野町には帰っていました。親戚が集まったときに、老人会の事務局長を引き受けてくれる人を探しているとの話がありました。会社を定年退職した後、何を生きがいとするか考えていたので、町のために役に立つことがあるなら戻ろうと思いました。京都出身の妻も同意してくれ、住む場所も決まったので、実際に移り住みました。

郡司達雄さん、茂子さんご夫妻 (谷津作行政区)



◆京都が故郷である茂子さんは、東北地方に移り住むことに不安などはありませんでしたか？

これまでもいろいろな場所に住んでおり、小野町にもなじみがあったので、特に抵抗感などはありませんでした。趣味のコーラスに参加したら、皆さんが温かく迎え入れてくれました。

ちぎり絵の講師経験があったので、小野町でもちぎり絵の講師を務めたりしているうちに、自然に打ち解けることができたと思います。夫が小野町出身なので、全く縁のない土地に移り住むケースとは、事情が異なっていると思いますが、自分から積極的に外に出て、地域の人と話すことで、地域とのつながりが深くなるのだと思っています。

◆約40年ぶりに町へ戻り、印象が変わった点などはありましたか？

毎年、町へ帰っていたこともあり、大きな違和感はありませんでした。

でも、一度町を離れたことで、外から見た町の良さを感じます。人情や自然が残っていることが小野町の良さだと思います。

豊かな自然に囲まれていると、都会の便利さはたいたことないと感じます。都会で暮らしている友人を町に招いたとき、自然のままの堤が残っていることに感動していました。

地元の人にとってはありふれた風景の中にも、素晴らしいものがあるのだと感じました。

お忙しい中、インタビューにご協力いただき、ありがとうございました。



茂子さんは、ちぎり絵の講師をされているとのこと、ご自宅には素晴らしい作品がたくさん飾られていました。ご夫妻は、各地のご友人を小野町に招いていらっしゃるようです。